

シンクタンクと政策決定システム

2006年2月28日

油木清明

Kiyooki Aburaki

1. 経団連の政策評価と政治寄付

- 日本初の政党の政策評価
- 政治寄付の参考材料(透明性、説明責任)
- 民間寄付は政策に充当するよう要望

⇒ 自民党、民主党の反応

2. シンクタンクの状況

- N I R A 報告書 220 機関対象の調査
経営が「厳しい」「やや厳しい」で過半数
経営悪化の背景は、
 - 国・地方の財政悪化、市町村合併
競争激化
 - 4 割が受託研究事業を拡大の方針
- 「日本にはシンクタンクは存在しない」

3. シンクタンクへのニーズ

- 民間の政策アイデアの重要性高まる
バブル前とバブル後
役所の政策に対する政策の満足度
- 政策に重きを置く新しい動き
政権公約等
なぜ定着したか？
後戻りするのか？

4. 政治主導の政策決定の可能性

- 英国の官民関係

サッチャー前とサッチャー後

- 政治に改革推進の決意があるか

- 改革を支える人材・アイデアがあるか

5. シンクタンクの要件

- 独立
- 政治との協力
 - 政策研究・提言
 - 実現のための様々な協力
 - 「顔」のある政策起業家の場
 - 政治への人材提供
- 政策と権力をつなぐ存在

6. 日本のシンクタンクの可能性

- ヒト 政策人材
- モノ 政策ニーズ
- カネ フィランソロピーの伝統の有無
- 社会的意義

Open & Dynamicな政策決定システム

政策本位の政治

改革の信念